ふるさとを探ろう 157

六地蔵さん

▲墓地と道をへだてたところにある茶畑の六地蔵

『日本民俗大辞典』によれば、お地蔵さんを六道の衆生を化導する六道能化とみる信仰は、日本では平安時代から広がり、特に地獄で苦しむ死者を救う地蔵として信仰され、お寺や墓地に安置されるようになったようです。また現世と冥界の境を守るところから、辻などに置かれた場合もあります。

六地蔵が身近なこととなるのは、仏式での葬儀に際して、六地蔵の前に「地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上」と書かれた蝋燭立てを建てることがあります。

町内の六地蔵を訪ねてみると、季節の花などが供えられていて大切に祀られていることが分かります

（名和町歴史研究会　金田　千義）

▲倉谷の六地蔵は墓地の入口にあります

町内を歩いてみると、あちこちでお地蔵さんを見かけることがありますが、お寺の境内やお墓近くの道の側、さらに墓地の中には、6体のお地蔵さんが並んで立っているのを見ることがあります。このお地蔵さんを六地蔵といいます。

普通はそれぞれのお地蔵さんが一体ずつ別々になっていますが、一つの石に6体のお地蔵さんが彫られた六地蔵もあります。また大塚の六地蔵のように、大変小さなかわいらしいものもあります。

6体の地蔵菩薩さん、それぞれが手に持つ持ち物に違いはありますが、六道で迷い苦しむ衆生を救済すると言われています。

六道というのはインドの世界観で、全ての衆生が死ねばその生の業に従って、輪廻転生するという六種の世界をいいます。六種の世界とは、天道・人間道・修羅道・畜生道・餓鬼道・地獄道といわれています。

私の傑作コーナー

曙短歌会

＊印は新仮名

床の間に無一物の軸かけて人間本来無欲にありたし
遠藤　定子

＊春蘭のかたき葉面すれすれに花に近づく　匂いは薄し
金田美彌子

父祖の地に生いしキャベツ兄嫁の届け呉れしをハリハリ食べる
塩谷　峯子

葱坊主太く立ちけり道の辺に交通安全の旗は並びぬ
角　公邦

足かばひ厨に立ちて一人居の昼食つくる今日は素うどん
角田　文子

＊昨晩は笑顔に別れし友今宵ましろき布に顔覆われぬ
寺井　悦子

聞き上手話し上手の友なれど今日は黙して何にも語らず
戸野　愛子

＊沈黙の中にやさしさと愛がある風に舞い散る桜はなびら
二宮留美子

＊野に山に花の盛りの村祭り幟はためく梨作る町
野口　律子

雪解水転作田にひたひたと草のあひより光こぼるる
森本　怜子

＊一人出て二人出てして寮に入り小さな盆に料理を運ぶ
山口　恭子

こんなことことやってます！

公民館サークル紹介 ㊴

わらしべ写遊会

写真を楽しんでみませんか

「わらしべ」が発足したのは今から14年前で、現在までに約230回の写真展を実施しています。7年前からは毎月1回の撮影会と、淀江町の施設での勉強会をおこなっています。

名和町では、公民館で年に数回写真展を実施していましたが、一昨年から正式に、名和町公民館サークルの一員として名和町内の参加者を募っています。

撮影会は、主に滝や花など自然写真を撮影に出かけますので、一眼レフカメラと三脚は必携です。場所によっては歩きにくい所もありますので、トレッキングシューズを用意していただくと安心です。参加者には毎月ハガキで日程を案内し、初心者の方は現地での撮影指導もしています。時々、少人数で長野県など遠方へ出かけたりもしています。

勉強会は、撮影したフィルムを持ち寄り、各人のレベルにあわせて一点ずつわかりやすく講評しながら指導しています。

撮影会で写した作品は、年1回公民館の展示室で発表しますので、皆様の参加をお待ちしています。

▲撮影：谷野恵史さん（倉谷）

年間活動予定

【撮影会】毎月1回　日程はハガキで通知
【勉強会】毎月1回　20日の夜（淀江町）
【展示会】年1回　公民館展示室にて
【代表者】　阪本寛文さん（御来屋11区）
【会　費】　撮影会　年会費600円
（目的地までの交通費実費）
勉強会　1回300円（部屋代）
※参加された時のみ必要
【問い合わせ先】　公民館（☎54－2688）

笹鳴句会

さみだれや明るさもどる水の底　逢坂　常盤
余生かな行く日々早し花は葉に　國谷　麗子
豆の飯ポツリポツリと雨の音　砂口芙二子
玉葱の泥つきしまま配りけり　角田　久子
琴の音にさそわれ揺るる藤の花　宮川　節子
捨白の目のありありと小米花　美柑みつはる

みふね句会

日の丸を峡の四五戸や子供の日　秋山多喜子
快方に話がはずむ若布粥　来海　忠満
自からの影砕きつつ深田打つ　国谷　耕川
柏餅大器になれと包みけり　高島　満代
背戸走るローカル線や桐の花　津村　春水
生卵コツリと割りて立夏かな　中川　幸宗
初なりの絹莢豌豆一握り　桝田　福女
柏餅ほげだつままに佛前に　松井　愛子
鍬洗ふ花菜明りを裏返し　美柑みつはる